

令和7年度  
「まちのひろば創出職員プロジェクト」  
報告書

川崎市市民文化局コミュニティ推進部  
協働・連携推進課

●目次

- 1 概要
- 2 これまでの取組（令和元年度～6年度）
- 3 今年度の取組（令和7年度）
  - (1) 概要
  - (2) 全体の流れ
  - (3) 集合研修・オフサイトミーティング
  - (4) 各グループの取組内容
    - ア 大人が楽しむ竹灯籠でキャンドルナイト  
ほっこりあかりであったまろう～あなたも一緒に里山保全～
    - イ 知りたい伝えたい！わたしの推しスポット 多摩区 ver.
- 4 むすびに

●職員プロジェクトメンバー 9名

<グループA>

- |         |                    |        |
|---------|--------------------|--------|
| ① 梅田 紗椰 | こども未来局児童家庭支援・虐待対策室 | (一般事務) |
| ② 大槻 和樹 | 多摩区役所区民サービス部区民課    | (一般事務) |
| ③ 蕪木 沙耶 | 市民文化局市民生活部庶務課      | (一般事務) |
| ④ 竹原 理生 | 教育委員会事務局総務部学事課     | (一般事務) |

<グループB>

- |          |                    |        |
|----------|--------------------|--------|
| ⑤ 池谷 明帆  | 環境局生活環境部川崎生活環境事業所  | (一般事務) |
| ⑥ 嘉堂 就   | 財政局しんゆり市税事務所市民税課   | (一般事務) |
| ⑦ 田中 萌衣  | まちづくり局住宅政策部市営住宅管理課 | (一般事務) |
| ⑧ 田中 雄一郎 | 環境局施設部王禅寺処理センター    | (一般事務) |
| ⑨ 村瀬 絢香  | 健康福祉局障害保健福祉部障害福祉課  | (一般事務) |

●事務局・オブザーバー（市民文化局コミュニティ推進部）

- |       |          |        |
|-------|----------|--------|
| 鈴木 健司 | 協働・連携推進課 | (一般事務) |
| 字廻 清美 | 協働・連携推進課 | (一般事務) |
| 萩原 彩加 | 協働・連携推進課 | (一般事務) |
| 石見 隼人 | 区政推進課    | (一般事務) |
| 山手 祐輔 | 区政推進課    | (一般事務) |

## 1 概要

---

本市は、暮らしを取り巻く社会環境の変化を見据え、市民一人ひとりが多様なつながりをつくり、自分らしく幸せに暮らせる地域社会の実現を目指して、平成 31（2019）年 3 月に「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」（以下「基本的考え方」という。）を策定しました。「基本的考え方」の中では、地域レベルの取組として、多様なつながりを育み、誰もが気軽に集える出会いの場として、多様な地域資源を活用した地域の居場所を「まちのひろば」と名付けて、市内に創出していくこととしています。

この取組を推進していくためには、行政としても、公共施設の地域化、民間資源の活用推進及び「まちのひろば」の自主性や自律性を尊重した支援などを進めるとともに、「市民創発」がもたらす様々な変化や動きに呼応することが求められていることから、職員の意識改革と人材育成が必要です。

こうしたことから、職員参加と意識改革の推進及び「まちのひろば」の見える化を目的に、職員自らが地域に出て「まちのひろば」のモデルを実践していく、これまでにない庁内横断型のプロジェクトチームを令和元年度に新たに設置し、地域の方など多様な主体と連携しながら多くのモデル実践を行い、新たな「まちのひろば」を生み出してきました。



地域に広がる「まちのひろば」 ～希望のシナリオのイメージ～

## 2 これまでの取組

### (1) 令和元年度

取組初年度ということもあり、若手職員を中心に多くの応募があり、オブザーバー2名を含め22名で4つのグループに分かれて活動し、以下の実践を行いました。

- 古い木造住宅が多い密集市街地の火災の延焼防止や災害時の一時避難場所とし設けられる「防災空地」を活用したマルシェの実施
- 市内大企業の配水所未利用地の有効活用を目的とした「FUSO グリーンガーデンを活用したまちのひろばの創出について」の取組（※悪天候によりイベント実施に至らず）
- 飲食店と連携したスナックや、JR 川崎駅コモレビテラスでのワークショップの開催等、地域の声を具現化した「まちのこえをカタチにするプロジェクト」の実施
- NECの公開空地を活用したイベント実施やNEC玉川事業場との共創による、さまざまなイベントの実施



地元町内会と協働した  
小田防災空地でのマルシェ  
「小田ランタン横丁」



飲食店と連携したスナック  
「日進町コミュニティスナック」

### (2) 令和2年度

新型コロナの感染拡大により、これまでと同様の手法で顔を合わせて集うことが難しくなったことから、令和2年度については、新しい取組を行うのではなく、前年度の取組を深化させながら、「新しい生活様式」に対応した新たな居場所やつながりづくりを実践していくこととし、テーマを「まちのひろば with 新しい生活様式」の創出としました。

令和元年度から継続実施する2つの取組（小田の防災空地、NECの公開空地を活用したイベント）を中心に、新しい生活様式に対応した「まちのひろば」づくりを実践することとし、昨年度からの継続メンバーを含めた15名が3グループに分かれて活動しました。

- 防災空地を活用し、街中に非日常の楽しさを生み出す地域交流のマルシェを地域の方と企画し実現
- NEC 公開空地にて敷地所有者、地域関係者と連携して実証実験を行い（中原区のご当地体操、ほしぞらディスコなど）、活用の可能性や課題、望ましい運営体制を模索
- 幸区の鹿島田駅前交通広場ほかで、新川崎タウンカフェなど地域のキーパーソンとともに、コミュニティガーデン創出の取組を実施

また、令和2年度からの新たな取組として、働き方改革や職員の人材育成の観点から勤務時間外に自主的な活動として参加できるサポートメンバーを募集し、集まった8名のサポートメンバーも可能な範囲で取組に参加してもらうことになりました。



NECの公開空地を活用した  
「ほしぞらディスコ」



鹿島田駅前交通広場を活用した  
イベントハステップアップ

### (3) 令和3年度

3年度の参加者は3名と少人数でしたが、その分各自の思いをより深く盛り込みながら、「公共施設の地域化から生まれるまちのひろば」などをテーマに以下の取組を行いました。

- **こども文化センターと老人福祉センターの複合施設「ふれあいプラザかわさき」ロビーで、こども文化センターの貸会議室登録団体と連携して、駄菓子屋や昔遊び、エクササイズ等の多世代交流イベントを実施**
- **コロナ禍で交流が進まないときだからこそ、つながりを創出するためのおためしオンライン交流会を実施**
- **多摩川スカイブリッジ開通に合わせたフォトコンテストを開催。同ブリッジ開通式には、フォトコンテストに連動した特別な場所からの写真撮影が可能なフォト交流会を実施**



お手玉で子どもと高齢者の多世代交流

### (4) 令和4年度

4年目となった同プロジェクトについては、前年度まで別途行っていた「地域コーディネーター研修」のステップアップ編と位置付けて実施しました。

合同で行うことで、初級編として研修で座学を学び、ステップアップ編のプロジェクトで実践してより深い学びとする、という流れができました。また、公募プロポーザルによる業務委託で石塚計画デザイン事務所により、地域コーディネーター研修の講義から引き続きプロジェクトの各グループへのアドバイスや企画作り等のポイントのレクチャーを受けながら進められたことで、安定したプロジェクトの進行を行うことができました。

4年度は、14名の参加者に事務局のコミュニティ推進部から4名の職員がオブザーバーとして加わり、3つのグループで事業を実施しました。また、自主的な活動として参加するサポートメンバーを庁内から広く募集し、オフサイトミーティングでの交流や実践の手伝いなどの協力体制をとりました。サポートメンバーには、過去のプロジェクトに参加していた職員も数名加わっていたことから、アドバイザー的な立場でも関わってもらうことができました。

新型コロナウイルス感染症の影響が続いていることから、コロナ禍における新しい生活様式の意識を持ちつつも、自由な発想で地域の方々の御協力を得ながら「まちのひろば」創出のモデル実施を行いました。

#### ●「ミライの青空紙芝居」 (グループA)

登戸土地区画整理中によるこどもの遊び場不足の解消やママ同士の交流の場を創出するために、区域内の未利用地「ミライノバ」を活用し、市民活動団体と連携した紙芝居やコーヒーショップ出店などを実施。

#### ●「テーブルゲーム みんな集合！」 (グループB)

転入世帯が多い鹿島田エリアで小学生とその保護者を対象に、同エリアの民間施設にて参加者同士が大笑いしながら交流ができるテーブルゲームを実施。



「多摩区絵本の会」さんの読み聞かせ



テーブルゲームで初対面同士も楽しく

### ●生田地区防災訓練との連携イベント（グループC）

町内会主催の防災訓練で、関連グッズの配布や絵本の読み聞かせ等、イベントの充実化を図ることで、町内会未加入者など新たな参加を生み、町内会未加入・加入者の交流を促進。



町内会の防災訓練へのジョイント

### （5）令和5年度

5年目の取組となった同プロジェクトについては、前年度に地域包括ケア推進室で実施した「地域マネジメント研修」（主に地域ケア推進課や地域支援課の職員など、区で地ケアの観点から地域づくりに関わる職員が参加）の要素を取り入れ、地域包括ケア推進室（健康福祉局）、人材育成課（総務企画局）との協力のもと実施することで、「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に加え、「地域包括ケアシステム推進ビジョン」「区役所改革の基本方針」「川崎市人材育成基本計画」も意識した研修内容となりました。

11の局区から若手を中心に計15名の職員が参加し、3グループに分かれてプロジェクトを実施しました。それぞれのグループには、アドバイザーとしてはプロポーザルによる業務委託で石塚計画デザイン事務所が、オブザーバーとして事務局のコミュニティ推進部から職員が加わり、自由な発想で「まちのひろば」創出のモデル事業実施を目指しました。

プロジェクトメンバー同士で様々な思いやアイデアを交換し、小さな“Do”を大切に進めた結果、当初思い描いた企画とは違う内容になっていったグループもありました。そのことは必ずしも計画どおりに進まなくても充実した成果を生み出すことができるという、まさに「市民創発」の実例であると考えます。

### ●身近な場所で自然体験～公園で自然とつながろう～ （グループA）

#### ①エコクラフト・市内の自然レクチャー

エコクラフトを始めとした空き缶ランタン、くるみキャンドルの作成等の工作や川崎市内の自然のレクチャー

#### ②焚き火体験

NPO 法人国際自然大学校が運営する麻生区の黒川青少年野外活動センターの御協力のもと、薪割りから火起こしまで行うことができる焚き火体験を実施。

各工程を進める中で、親子同士が協力するところや同じグループ内で別の家族同士で交流するところ、中には、子ども同士でどうやったらうまくできるか教え合う姿が見受けられました。



工作の様子



火起こしの様子

●REAL VOICE 上映会～コミュニティにできることを考えよう  
～（グループB）

SNS など様々な形でつながりが生まれているなかで、文化や育ちの背景に関わらず、誰も取り残されない、誰もが安心して生活できる社会の実現に向けて、「つながり」をテーマにしたTOHO シネマズ川崎での上映会とパネルディスカッションを実施。



市長とともに観覧

●ポッチャを通じた世代交流を楽しもう！@かないばら苑♪  
（グループB）

「1回限りとならない多世代交流」を目的とし、ポッチャをやったことのない高校生が、ポッチャ経験のある高齢者と一緒にゲームをする企画を、長寿日本一でポッチャ大会も行っている麻生区で実施。



座って実施  
（社会福祉法人徳心会 菅の里）

●「広げていこう気付きの輪 繋げていこう木月の和」  
（グループB）

社会福祉協議会からの御紹介で、保育、高齢者、障害者、児童・母子の分野の地域団体へ個別ヒアリングを実施。つながりのネットワークを作ることとなり、名称を「広げていこう気付きの輪 繋げていこう木月の和（【略称】木月のわ）」と決定し、簡単な交流会を開催。当日は、木月ほほえみ保育園の年長園児も参加してくれました。



簡単な交流会の様子

●どうして公園はいつもきれいな？ヒト型すごろく  
（グループC）

日頃から遊んでいる公園で、人々のつながりだけでなくゴミのポイ捨てや維持管理の担い手不足など公園をとりまく課題を解決するきっかけとなるミッションを織り交ぜたヒト型すごろくイベントを、公園管理運営協議会の協力をいただき開催。



ヒト型すごろくを体験

（6）令和6年度

6年目の取組は、令和5年度に引き続き「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」を踏まえ、「地域包括ケアシステム推進ビジョン」「区役所改革の基本方針」「川崎市人材育成基本計画」を意識した実践型の人材育成プログラムとして実施しました。

7つの局区から若手職員を中心に9名が参加し、2グループに分かれて活動しました。アドバイザーとしてはプロポーザルによる業務委託で石塚計画デザイン事務所が加わり、コミュニティ推進部職員がオブザーバーとして関わる体制で、「まちのひろば」創出のモデル事業に取り組みました。



ハビヨーガ

集合研修とフィールドワークを組み合わせ、地域資源や地域課題への理解を深めながら、関係者との対話や協働を重視し、企画検討から実践、振り返りまでを一連のプロセスとして進めました。

各グループは、地域団体や関係者へのヒアリング、庁内調整等を重ねながら企画を具体化し、地域の特性や課題に応じた「まちのひろば」づくりを実践しました。成果発表では、実施内容に加え、取組のプロセスや参加職員自身の気づきについても共有され、地域に出て当事者と対話することの重要性や、行政と市民の視点の違いに気づく機会となりました。

●あつまれ！みんなの“多摩り場”～北部をもっと推せるまちにしよう！！～（グループA）

北部地域への愛着形成や子育て世代、とりわけパパ同士のつながりづくりを目的に、地域子育て支援センター等と連携し、親子で参加できる交流プログラムを実施しました。

●＼It's a small world／川崎に小さな世界をつくりたい！（グループB）

多文化共生をテーマに、文化や育ちの背景の違いを越えて交流できる場づくりを目指した企画を立案・実施しました。



マップづくり



レクリエーション（多言語ゲーム等）



民族衣装の展示

本プロジェクトを通じて、職員が地域の担い手と同じ目線で考え行動する経験を積むとともに、日常業務にも生かせる企画力や調整力、対話力の向上を図ってきました。

### 3 今年度の取組（令和7年度）

---

#### （1）概要

7年目の取組となった本プロジェクトは、引き続き「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づき、「地域包括ケアシステム推進ビジョン」「区役所改革の基本方針」「川崎市人材育成基本計画」を意識した内容となるよう実施しました。

今年度は、8つの局区から若手を中心に計9名の職員が参加し、2グループに分かれてプロジェクトを実施しました。それぞれのグループには、アドバイザーとしてプロポーザルによる業務委託で石塚計画デザイン事務所が、オブザーバーとして事務局のコミュニティ推進部から職員が加わり、自由な発想のもと「まちのひろば」創出のトライアル事業実施を目指して取り組みました。

#### （2）全体の流れ

プロジェクト全体の流れは以下のとおりです。全体で集まる集合研修を計3回行い、その間のフィールドワークでは、グループごとに、現地視察や地域の方へのヒアリングや打合せ等を行いました。またオフサイトミーティングとして、過去のプロジェクトに参加した職員へ呼びかけて、企画案に対してアドバイスをもらう機会を設けました。研修は「地域資源を知る」というねらいで、民間のスペースも含め市民の活動・交流の場となっている特色ある会場でそれぞれ実施し、集合研修の間はオンラインも活用しながらミーティングやフィールドワーク等のグループ活動を随時行いました。

- 4月～ 参加者募集
- 5月 地域コーディネーター研修
- 7月 集合研修1回目 | 顔合わせ
  - ↓ フィールドワーク | 企画検討
- 8月 オフサイトミーティング
  - ↓ フィールドワーク | 企画づくり
- 10月 集合研修2回目 | 中間報告
  - ↓ フィールドワーク | 広報・イベント実施
- 2月 集合研修3回目 | 成果発表

#### （3）集合研修・オフサイトミーティング

##### ア 第1回集合研修

日時 令和7年7月15日（火）13:30～17:00

場所 川崎市生活文化会館 てくのかわさき

- 内容
- ・オリエンテーション（研修の目的/目標の確認、スケジュールの共有）
  - ・講義①（まちのひろばについて・地域コーディネーターとは）
  - ・講義②（実践プロセスとポイント）
  - ・グループミーティング（グループコンセプト、企画のアイデア出しなど）

はじめに、オリエンテーションと自己紹介をした後、市民協働のまちづくりや「まちのひろば」についての講義、企画づくりと実践の進め方の説明を受け、2グループに分かれてチームビルディングとアイデア出しを行いました。アイデア出しでは、様々な部署から集まるメンバーそれぞれの経験を盛り込み、各グループの個性豊かなアイデアが飛び交っ

ていました。最後に、話し合った内容について各グループから発表を行いました。



## イ オフサイトミーティング

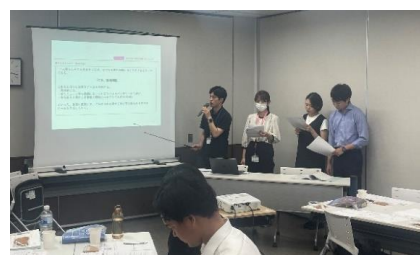
日時 令和7年8月21日（木）18:30～20:30

場所 川崎市総合自治会館

内容 ・各グループの企画案の発表とブラッシュアップ

オフサイトミーティングは、企画の進捗を共有するとともに、プロジェクトの直近経験者からアドバイスをもらうことで企画を更に深めるため開催しています。前年度の経験者4名が参加し、企画した際の注意点や職員として地域の方とのかかわり方の経験談、グループで企画を進める上でのヒントなど、同じ職員の視点だからこそ分かる助言や支援を得ました。

第1回集合研修後のグループ活動を経て企画案を初披露する機会でしたが、経験者等からのフィードバックを踏まえてグループワークをし、最後は「自分たちが大事にしたいイチオシポイント」や「さらにブラッシュアップしたいポイント」など、今後の企画の方向性を発表しました。



## ウ 第2回集合研修

日時 令和7年10月6日（月）13:30～17:00

場所 新城 PASAR BASE

内容 ・各グループからの企画発表、ブラッシュアップ、グループミーティング  
・講義 参加してほしい人に届けるためのPRを考えよう  
振り返りや記録のことも意識して活動しよう

オフサイトミーティングから約2か月、地域の方々との打合せや庁内関係部門との調整などを経て進めてきた、各グループの企画の発表とブラッシュアップを行いました。検討した企画を発表し、互いに質問や助言を行い企画を更に深める機会となりました。その後「来てほしい人に届けるための広報」について講義があり、広報の手順や効果的な手法を学び、イベント開催までの準備期間をイメージを深める時間になりました。



## エ 第3回集合研修

日時 令和8年2月4日（水）13:30～17:00

場所 川崎市役所本庁舎

内容 ・各グループの成果発表と講評、職員プロジェクトの振り返りと共有

半年間かけて取り組んできた活動の集大成として成果発表会を実施しました。参加職員がプロジェクトから得た成果や学びを共有することを目的として開催したものです。

当日は、参加職員の上司・同僚のほか、プロジェクトに御協力いただいた地域団体の方にも御出席いただき、各グループが活動内容や取組を通じて得た気付き等を発表しました。上司から講評・コメントを直接いただくとともに、協働相手である地域団体からの率直な御意見をいただきました。

研修後半では、半年間の活動について振り返りを行い、良かった点や課題を共有するグループワークを実施しました。



#### (4) 各グループからの報告

##### ア 大人が楽しむ竹灯籠でキャンドルナイト

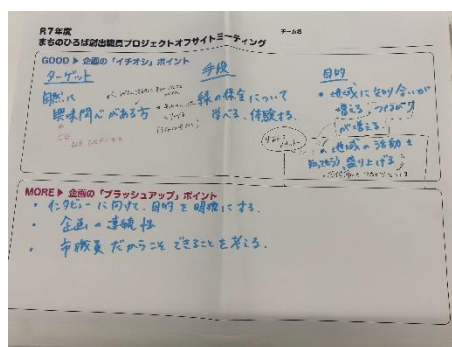
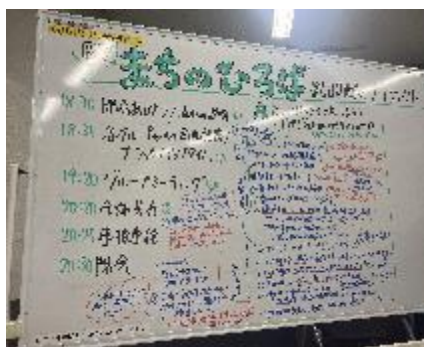
##### ほっこりあかりであったまろう～あなたと一緒に里山保全～ (グループA)

##### ●プロジェクトメンバー

竹原 理生	教育委員会事務局総務部学事課
梅田 紗椰	こども未来局児童家庭支援・虐待対策室
大槻 和樹	多摩区役所区民サービス部区民課
蕪木 沙耶	市民文化局市民生活部庶務課

##### (ア) キックオフ

第1回集合研修(8月21日開催)では、本プロジェクトでどのようなことをやりたいか、グループ内で話し合いを行いました。話し合いの中で、全国都市緑化かわさきフェアに参加した職員が多かったことから、「川崎市の豊かな自然を活かした企画にしたい」という意見が挙がりました。また、GOOD・MORE ポイントの話し合いの中で、企画の目的として挙がっていた「人々のつながりを増やしたい」というところから派生して、「地域の活動を知ってもらう」「団体同士のつながりをつくる」ということを目的に設定しました。



##### (イ) 準備

本プロジェクトを進めるにあたって、私たちはまず、市内で活動されている団体「かわさきあかり」の中村ふみよさんにお話を伺いました。企画を開催する時期は寒い冬だからこそ心温まる自然体験を提供したいと考えていたところ、川崎市内で竹灯籠制作体験を通して里山保全を広める活動をされているかわさきあかりさんのことを知り、連携させていただきたいと考えました。協働の依頼をしたところ快諾してくださり、企画の相談から団体メンバーの予定調整等、企画全体を通して御協力いただきました。また、かわさきあかりさんは「お月見フェスタ」「えきまえ遊園パーク」というイベントに出店し、竹灯籠を作成・販売されており、このイベントにトライアル参加して竹灯籠イベントの実施を経験してみても、と提案してくださいました。

実際にイベントに参加して、テント設営や受付、竹灯籠制作のサポートを行いました。かわさきあかり代表の矢澤舜さんに御教授いただきながら私たち職員も竹灯籠制作を体験させていただき、来場者と一緒に手を動かして竹灯籠を作成したことで、次第に作り方をお客様に教えることができるまでになりました。また、団体の方々に活動への想いを伺う時間ができ、里山保全に携わる中での担い手の不足や広報の難しさなどを知りました。自分たちが企画するイベントを通して、里山保全に興味を持つ方、担い手を増やしたいという想いが生まれました。



他にも地域で活動されているみどりの団体様にインタビューさせていただき、活動への想いや活動を通じた地域への関わり方など貴重なお話を伺うことで、「地域住民の関わりを生み出す」という企画の目的を深めることができました。

企画づくりでの懸念点として、かわさきあかりさんの既存イベントに寄りかかる形ではなく、職員プロジェクトとして実施する意味をどのように作ればよいか頭を悩ませていました。グループミーティングを重ねる中で、イベントの目的である「つながり」を生み出すためには、参加者同士でゆっくり話してお互いのことを知る時間が必要だと考えました。そこで、焚火を囲んでトークする時間をプログラムに盛り込むことを決め、企画の方向性を固めました。

開催場所については、竹林から切り出した竹を搬入しやすく、かつ焚火ができる場所を検討し、最終的には「そらとま BASE」（かわさきあかりさんの活動拠点で、敷地に竹林があり焚火カフェとして場所を貸し出している）にてイベントを開催させていただけることになりました。

## (ウ) 広報

12月から広報を開始し、市民文化局コミュニティ推進部の SNS への投稿や、情報プラザを通して区役所等公共施設にチラシの配架を行いました。また川崎市主催のイベント「Colors Future, Summit」でのチラシ配布や、緑化フェアのメールマガジン、LINE オープンチャットや Facebook で宣伝し、参加希望者に広く情報が伝わるよう取り組みました。

募集当初、イベント参加者について 18 歳以上との年齢制限を設けており、参加申込者が少なく不安を覚えました。しかし、協力団体の皆様や運営事務局、アドバイザーを務めた石塚計画デザイン事務所から広報先の紹介などサポートをいただき、日に日に参加者が増えていくことに感謝と喜びを感じました。

また、保全活動をしている団体をまとめた「活動団体マップ」の作成・配布を検討し、建設緑政局グリーンコミュニティ室に相談も行いました。（公財）川崎市公園緑地協会が作成されている「緑の活動団体」登録マップの存在を知ることができ、イベントに参加いただいた方にお渡しする資料をいただくことができました。

## (エ) イベント実施

イベント当日は 6 組 8 名の方に御来場いただきました。講師は、かわさきあかり矢澤さん・中村さん、森展の会スミナツコさん、asobimode 萌井あゆみさん（焚火カフェ）の計 4 名の方に御協力いただきました。

イベントの内容として、まず竹に関するミニクイズ・ミニ講座を行い、竹灯籠制作をした後に焚火を囲んで参加者同士で歓談するプログラムを実施しました。

初めのミニクイズ・ミニ講座の内容は、かわさきあかりさんとの打ち合わせで伺ったお話に基づ

いてメンバーが考案しました。特にクイズの「若い竹はどちらでしょう」という問題では、現地の竹林に実際に生えている竹を参加者に見比べてもらい、実物を触りながら全員で回答を考える時間は大いに盛り上がりました。

竹灯籠制作のパートでは、かわさきあかり矢澤さん実演のもと参加者全員で竹の切り方を学び、切り倒した竹を作業台に運んだ後に十数センチほどの大きさに切り分けました。全員で力を合わせて一つの作業をする経験を通して、会場の空気が温まっていくのが感じられました。竹に穴を空ける際に台を支え合い、でき上がった竹灯籠と共に参加者同士で写真撮影をする光景を目の当たりにし、「参加者同士のつながりをつくる」という目的が達成できたのではないかと嬉しく感じました。

最後のトークタイムでは、講師やメンバー、参加者が2グループに分かれ、焚火台を囲みながら歓談しました。事前に用意していたトークテーマ（好きな自然スポットは何か等）や、里山保全に関するテーマについて参加者が和気あいあいと話し合っていました。

17 時頃、和やかな雰囲気の中でイベントが終了しました。参加者同士で「またどこかでご一緒できたら良いですね」と話す声が聞こえたり、「今日は楽しかったです」と笑顔で会場を後にされたりするのを見て、良いイベントをつくることができた嬉しく思いました。

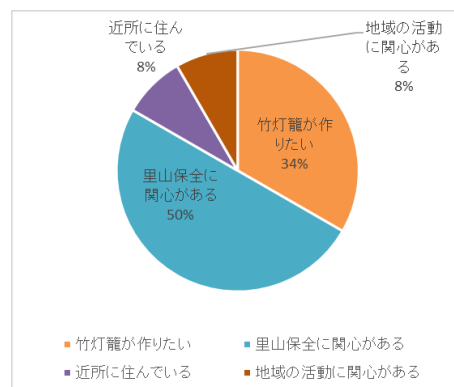


#### (オ) イベント後アンケート

参加者からいただいたアンケートでは、竹灯籠や自然に関心のある方が多く参加し、年齢層が比較的高めであったことが分かりました(表 1・2 参照)。「里山保全に関わる人を増やしたい」というねらい通り、自然に関心があり、ボランティアへの参加がしやすい層を集めることができました。参加者からのコメントでは、「里山保全について考えさせられた」、「もっと考えてみようと思った」と嬉しいお声もいただきました。さらに、「トークタイムでいろいろな話ができてよかった」との声もあり、参加者同士をつなげた手応えを得られました。



(表 1) 参加者の年齢構成



(表 2) 参加の理由

## (カ) 振り返り

今回のイベントを通して、参加者が楽しみながら里山保全について学ぶ機会をつくるとともに、興味関心の近い住民同士のつながりをつくることができました。

良かった点は、次の3点が挙げられます。

1点目は、参加者全員で協力して竹を運び切り分けるといった共同作業の時間を設け、参加者同士の会話が生まれたことです。屋内に比べて開放的な空間で体を動かすことができる屋外開催の強みを活かし、イベント前半にクイズ等で穏やかな雰囲気づくりができたことが、後半のトークタイムをうまく盛り上げることであったと考えています。

2点目は、初めて竹灯籠を作るだけでなく、以前から里山保全に関心のある方にとっても発見のある内容にできたことです。かわさきあかりさんの拠点に何度も足を運び、職員自ら里山保全に関する知識を深めたことや、建設緑政局グリーンコミュニティ推進室から講義内容のアドバイスをいただいたことを活かすことができたと考えています。参加者アンケート内でも「里山保全に関するお話が興味深かった」という声を多数いただくことができました。

3点目は、計画的にイベント準備を進めることができたことです。イベント準備の進め方について、タイムスケジュールやスライド資料を作成して当日の進行を意識しながら準備を進めることができました。また、協働団体や事務局職員・アドバイザーのサポートによって迅速に開催日程を決めることができたため、開催までの見通しが立てやすく、スムーズに動くことができました。

課題としては、次の2点が挙げられます。

1点目は、屋外でイベントを実施する難しさです。今回は実施時期が1月で、昼過ぎから夕方にかけて開催のイベントだったため、防寒対策が必要でした。参加者に防寒対策を各自で行ってもらい、暖かく動きやすい服装が必要となることから、参加のハードルが上がる可能性があります。また、講義スライドをどのように見せるかということも検討が必要でした。スライドを投影するスクリーンなど設備が用意できないため、当日はA3用紙に印刷して紙芝居方式で提示するという方法を取りました。実際に会場で講義してみると、会場全体にスライドを見せるには小さく、配布用資料を用意する必要があったと感じました。

2点目は、実施場所の確保と時期の調整です。竹の伐採・焚火体験が可能な場所は限られるため、協働団体のお力添えなくして今回のイベントは実現できませんでした。また、「竹の伐採を一人一人がもっと体験できたら良かった」という御意見もいただきましたが、当日の竹林の状況によって伐採できる本数が変わるため、体験できるプログラムには限界があるという現状もありました。様々な課題がある中で可能な限り参加者に楽しんでもらえるように企画を作っていくことの難しさを実感しましたが、川崎市の豊かな自然を通じて今後も地域の方をつなげる活動ができるよう取り組んでいきたいと感じました。

未筆ながら、このプロジェクトに携わった全ての方々との協働でイベントを開催することができましたこと、感謝を申し上げます。



## イ 知りたい伝えたい！わたしの推しスポット 多摩区 ver. (グループB)

### ●プロジェクトメンバー

池谷 明帆	環境局生活環境部川崎生活環境事業所
嘉堂 就	財政局しんゆり市税事務所市民税課
田中 萌衣	まちづくり局住宅政策部市営住宅管理課
田中 雄太郎	環境局施設部王禅寺処理センター
村瀬 絢香	健康福祉局障害保健福祉部障害福祉課

### (ア) キックオフ

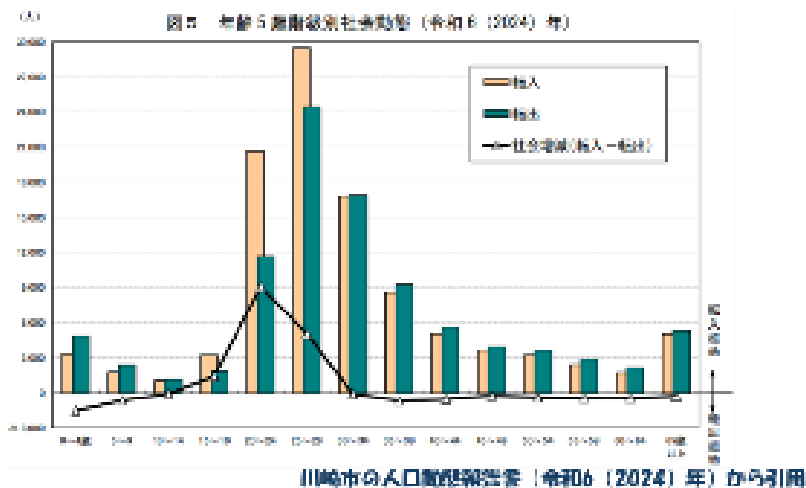
第1回集合研修では、市民協働のまちづくりについて、企画をするにあたっての基本的な考え方やプロセス等について学びました。

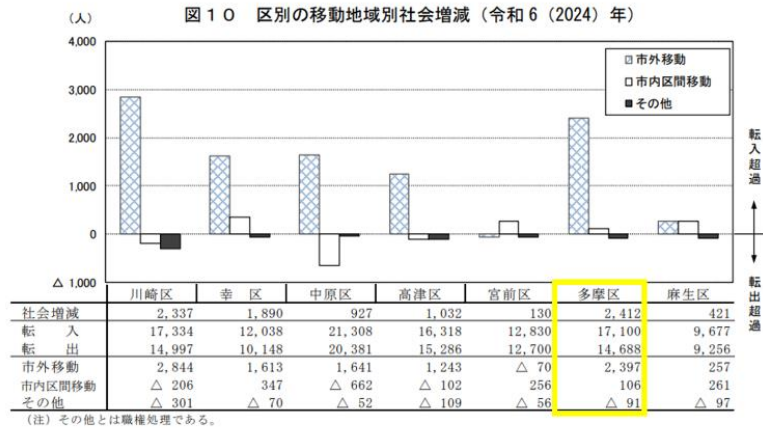
まず、今回の企画の目的を「多世代交流」と設定しました。メンバー同士で話し合いを行い、このプロジェクトに対する目的が「多世代交流」と共通していたためです。さらに、メンバーと同世代である若年世代（10～30代）の社会人をメインターゲットとすることを決めました。10～30代の社会人は、地域との接点や知り合いが少なく、横のつながりが生まれにくい状況があります。また、仕事中心の生活になりやすく、自然な出会いや交流の場が限られているという課題もあります。交流イベントは高齢者や子育て世代向けのものが多く、同世代・同じ境遇の人と出会える場が不足しています。そしてコロナ禍以降、リモートワークの普及などにより、人との関係性が希薄になり、若年社会人層は孤立感を抱きやすい状況にあります。

これらのことから、10～30代の社会人に向けた「多世代交流」の企画を行うこととしました。

### (イ) 課題の発見・企画検討の経緯

多摩区は、毎年人口が増加しており、また登戸・向ヶ丘遊園エリアの区画整理事業の進展などにより今後も多くの方々の転入が想定されるなど、進化し続けています。緑に恵まれながら南武線や小田急線・千代田線で様々な場所に行ける多摩区は、学生や新社会人といった単身者、ファミリー層等の若い世代が今後も一層増えていくのではないかと考えています。その多摩区において、直近で新たに転入してきた若い世代の社会人のための「まちのひろば＝地域とのつながりを生み出す機会」を創出したいと考え、企画の実施場所を多摩区とすることとしました。





#### 川崎市の人口動態報告書（令和6（2024）年）から引用

この「川崎市の人口動態報告書（令和 6 年）」から引用したデータからもわかるように、単身世帯の若者は、進学や就職などをきっかけに市内へ転入してきたケースが多いことや、川崎市内では多摩区において増減が多いことが示されています。私たちは多摩区に焦点をあて、若年層の転入が多い一方で、地域とのつながりづくりが追いついていない現状があると考えました。

そこで、転入者同士が気軽につながれる場をつくることを目的とし、同じ境遇を持つ人同士が安心して交流できる場を通じて、地域との心理的な距離を縮め、「知り合いがいる」「話せる人がある」という実感を持ってもらう場を作ることを目指しました。また、リアルなつながりをきっかけに、今後の地域活動やイベント参加につなげ、若年社会人層の孤立防止と定着促進を図れるような「次につながるイベント」づくりを考えることとしました。

案として当初は「ごみ・環境問題」をテーマにした謎解きゲームを企画しました。メンバーが所属する部署や業務などの強みを生かせることや、社会的にも課題が顕在化してきた「モバイルバッテリー」の問題を解決できるようなアイデアがあったためです。企画内容について、ターゲット層である若者の声を確認するため、多摩区ソーシャルデザインセンターで活動されている学生へインタビューを行ったところ「若者にとってごみ・環境というテーマは参加動機になりにくいのではないか、また、社会人と学生が混在することで参加ハードルが上がるのではないか」との意見をいただきました。

学生の意見を踏まえてメンバー内での再検討を行い、「進化系対話型カフェ」という形に方向転換しました。「対話型カフェ」とは、料理やドリンクを楽しみながら、リラックスした雰囲気の中で、多様な参加者と特定のテーマについて「対話」を深める場所やイベントのことを指します。単なるおしゃべりではなく、互いの意見を尊重し、新たな気づきや相互理解を得ることを目的としています。この「対話型カフェ」をベースに、対話するだけでなく、参加者でひとつの物を作り上げることも含めたイベントにするため「進化系対話型カフェ」としました。

#### (ウ) 協力団体へのヒアリング

多摩区役所まちづくり推進部の地域振興課や企画課に案を持ち込み、多摩区ソーシャルデザインセンターの「カラフルカフェ」「学生カフェ」活動を紹介いただきました。

「カラフルカフェ」は、「**Colorful Community Access For Everyone**」と「**Building A Relationship**」という意味が込められた、「ゆるくツナガル・一緒にワカチアウ・気軽にマナブ」を

コンセプトに多世代が気軽に集うまちのひろばです。（頭文字をとってカラフル CAFE & BAR というイベント名にされているそうです）。多様なテーマを通じて、多世代が出会い、学び合い、つながる場を育てて、子供から大人まで、性別や年代を問わず、多様な個性が自由に集い、笑顔と絆が広がるひとときを提供されています。

「学生カフェ」は週に1度学生スタッフが集まり、情報交換やイベント・活動の準備をしています。また、地域で活躍されている方を招いて講演をしたり、他のメンバーに自分の人生曲線を発表したりするなど、就職活動の準備や個人のスキルアップを目的にした取組も行っており、学校、学部、年齢が異なる若者が集まり、交流を深めています。

多摩区で活動されているこれらのまちのひろばに実際に参加したことで、地域で何が求められているのかということや、若者世代の参加率増加の難しさなどを学びました。多摩区の中でも登戸・向ヶ丘遊園エリアは人の入れ替わりが多く、現在も区画整理が続いていることもあり、地域としての活動が難しい上、活動を定着させることの難しさという課題がありました。さらに、学生カフェでも学生の参加は就職活動のためという目的意識から参加が多いようですが、その先の世代に繋げることが難しく、特に若者の社会人の参加にはハードルを感じているようでした。



## (工) 企画内容の決定

ヒアリングなどを行い、イベントの対象を「2020年以降に多摩区に転入した10～30代の社会人」とし、企画の趣旨を次の2点としました。

- ① 同じ境遇を持つ人同士（転入者同士）が気軽につながれる場を作り、若年社会人層の孤立を防止すること
- ② 多摩区の魅力を伝え、地域活動やイベント参加、地域定着を促進すること

さらに、多摩区をあまり知らない方がもっと多摩区のことを知る機会になるように、多摩区PRアンバサダー2025を務めている「にしにし家」さんにゲストとして御協力をお願いし、「学生カフェ」に参加されている学生の方達にはスタッフとしてイベント運営の御協力をお願いしました。

イベントの内容は2つのカテゴリに分け、「にしにし家」さんのトークショーを中心とした前半パート、グループワークを通じ参加者が交流する後半パートとしました。開催場所は、アクセスしやすく会議室などの閉鎖空間ではない、気軽に参加できるような場所であること、さらに行政主催としての安心感もある、多摩区役所1階アトリウムを選定しました。この場所は休日でも人通りがあるため、イベント参加者ではなくても、前半パートのトークショーには多くの人に気軽に参加してほしいという意図を持って選びました。

## (オ) 実施に向けた準備

まず、大まかなイベント内容と流れを作成し「カラフルカフェ」の御協力の下、12月14日(日)のカラフルカフェ Cafe & BAR Vol.20において、イベントのトライアル実施を行いました。参加者の皆さんに多摩区でお気に入りの場所“推しスポット”を紹介してもらい、まちの魅力を語りながら交流を行いました。トライアル実施を通して感じた、良かった点、問題点、イベント本番で実施すると良さそうな点など様々な意見をフィードバックしてもらいました。特に、アイスブレイクの進め方や、話題の広げ方などの課題が見えてきました。また、飲食店以外のスポットの出し方や、各グループに地域に詳しい人がいることの重要性も確認できました。

次に、日々多摩区で働いていたり働いた経験のある方々の視点から多摩区の魅力を伝えたいと考え、多摩区役所、市民文化局、メンバーの所属部署の職員に向けて、多摩区の推しスポットに関する庁内アンケートを行いました。実施期間は12月3日～19日、50件分の回答が寄せられました。

広報については、イベントのメインターゲットが10～30代ということもあり、SNS 広報(Instagram)と紙媒体のチラシ広報を併用しました。紙のチラシについては多摩区役所や多摩図書館などで配布を行いました。チラシや投稿デザインについては、メンバーの強みを生かし作成しました。イベントで使用するマップ等についてもオリジナルで作成を行いました。



Instagram への投稿

## (カ) イベント当日の様子

1月18日(日)14時～16時、多摩区役所1階アトリウムにおいて、「知りたい伝えたい!わたしの推しスポット(多摩区 ver.)」を実施しました。

### ①前半パート「トークショー」

簡単な自己紹介を含めたアイスブレイクをグループで行い、川崎市職員から寄せられた多摩区の推しスポットを参加者全員に紹介しました。その後、「にしにし家」さんお二人によるトークショーを行いました。トークショーはQ&A形式で実施し、「にしにし家」さんの活動について、発信活動をはじめたきっかけ、新たなスポットの探し方、多摩区の魅力、知られていない穴場などたくさんのお話をいただきました。また、Instagramで「にしにし家」さんをフォローしている方が多く、参加者の方からもたくさんの質問が上がり、とても盛り上がる前半となりました。そして、たまたま通りがかった方も足を止めてトークショーに参加してもらえました。



## ②後半パート「グループ交流」

グループごとに、行ってみたいスポットや推しスポットの情報交換を行いました。またあらかじめ配っていた多摩区マップに参加者それぞれがスポット情報を書き込み、自分だけの多摩区推しスポットマップを作成してもらいました。グループごとで特に気になった場所について、グループの推しスポットとして、イベント参加者全体に向けた共有も行いました。各グループの交流中には「にしにし家」さんお二人にも参加いただき、知る人ぞ知る多摩区のグルメ情報について聞くこともできました。

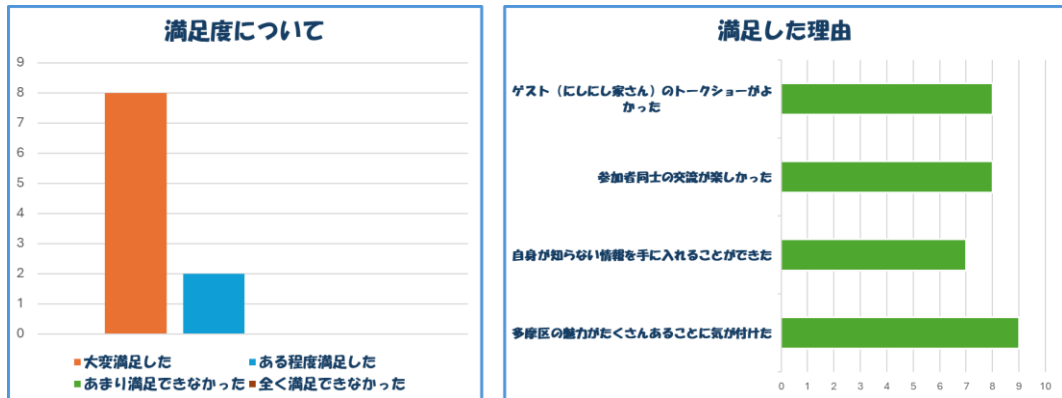


## (キ) 結びに

イベントについて、参加者7名（申込 10 名、うち3名欠席）、「にしにし家」さん御夫婦2名、学生カフェのスタッフ3名に御参加いただきました。グループで決めた目的である、同じ境遇を持つ人同士（転入者同士）が気軽につながれる場を作ることができたように感じています。イベント参加者からのトークショーにおける質問でも声がありましたが、「転入してきたばかりで、どこへ行けばいいのかわからない。まわりに知っている人がいないのできっかけもない。よく見るインスタのインフルエンサーのイベントだったので良いきっかけだった」という意見は、今後のイベント運営において非常に大事な機会創出のポイントとなるように感じました。影響力のある人

の言葉が、現在の若者にとって大きな参加動機になるように思いました。また、トークショーについて、多くの人に気軽に参加してほしいという意図を持って多摩区役所 1 階アトリウムを選びましたが、偶然通りがかった方に多摩区の推しスポットマップに興味を持ってもらえ、さらにトークショーでも足を止めて参加してもらうことができたので、場所の設定としても目的を達成したと考えています。

参加者アンケートにおいては次のような結果となりました。



具体的な意見として、「同年代の方と知り合えるきっかけ作りになった」「多摩区の知らないグルメや魅力を知ることができた」という声を得ることができ、イベント目的とも合致していることから、良い結果となったように考えています。

一方で課題についても多くの気づきがありました。まず一つ目に、行政側が良いと思う企画が、そのまま参加動機につながるとは限らないということです。行政側がどんなに良い場所で十分なスタッフを用意できたとしても、参加者や地域が求める内容でなければ意味がありません。事前のヒアリングによって、イベントの再検討を行ったことは時間調整や内容設計に困難を生じましたが、より良いイベントの実施のためには必要なものだったと考えています。

二つ目に、広報のあり方についてです。メインターゲットの集客ツールとして SNS 広報（Instagram）を用いましたが、広報期間としては不十分だったため私たちが望む参加人数を集めることができませんでした。イベント開催場所としては大きな場所を設定できたので、広報期間が多ければより多くの方の参加に繋がったように感じています。一人でも参加してみようと来てくださる方が多かっただけに、課題が残る結果となりました。

最後に、庁内外を問わず多くの方の御協力を得ることができ、今回のイベント成功に繋がりました。このイベントが何かの形で次へ繋がる機会やきっかけとなれば嬉しいです。ありがとうございました。



## 4 むすびに

---

本プロジェクトは、市職員が職場や庁舎を飛び出し市内のまちに出て、地域の方々と対話を重ねながら「まちのひろば」づくりを試行することを通じ、協働の姿勢や企画力、コーディネートスキルを体得することを目的として実施してきました。

企画の立案から、協働先となる地域団体との出会いや丁寧な相談・協議、庁内調整、そして当日の運営に至るまで、必要なプロセスのすべてを参加職員自らが担う中で、思いどおりに進まない難しさや、調整に時間を要する場面も多くあったことと思います。しかしながら、その一つひとつの試行錯誤が、地域とともにつくる行政のあり方を実感する経験となり、市職員としての成長につながる得難い学びとなったものと考えます。

参加職員はそれぞれ、地域に出て向き合うことの重要性や、行政と市民の視点の違いに気づいたこと、また、小さな実践であっても対話と協働を重ねることで新たなつながりや可能性が生まれることなど、確かな気づきを得ています。

本プロジェクトを進めるにあたり、日常業務が多忙な中においても参加職員を送り出し、温かく支えていただいた各所属部署の皆様、庁内調整等に御協力いただいた関係部署の皆様に改めて御礼申し上げます。

そして、職員の思いに真摯に耳を傾け、ともに企画を考え実践にお力添えをいただいた地域団体や市民の方々の御理解と御協力なくして、本プロジェクトの成果は得られませんでした。この場をお借りして深く感謝申し上げます。

本プロジェクトを通じて職員が得た経験と学びが、今後それぞれの職場における業務の中で生かされ、地域の方々とともにまちを創っていく力となることを期待するとともに、「まちのひろば」の取組がより多くの場所で広がっていくことを願い、報告のむすびといたします。